

あいちの印刷

8

2011.8
No.477



香落溪

も く じ

巻頭言 組合員にメリットを ／副理事長 岡田邦義	3
7月期理事会・支部長会	4
岩田宗雄氏に『旭日小綬章』伝達	5
新しい印刷会館竣工に向け地鎮祭	6
中部地区印刷会議 23年度上期会議(岐阜県会議)分科会報告	8
身近な催し物のお知らせ	9
愛知県印刷工業組合 印刷機予防保全セミナーより	10
従業員・家族合同レクリエーション大会	12
お知らせ「全印工連フォーラム2011」 「環境国際フォーラム」／事務局だより	14

巻頭言

組合員にメリットを

副理事長 岡田 邦義

今、企業が求める人材とは即戦力であると言われる。即戦力というと、高いスキル、専門分野の知識、業務経験と言うのではなく、「自分で考えて行動できる人」、「自分でものを考えられる力、自律性」のできる即戦力性が求められています。これは自分自身の「行動原則」、「自分のルール」を持っているかです。自分が立てた目標をどのようにやり遂げた、どのような戦略で対応したのか。そしてそれらの結果はどうだったのか。自分のやり方は通用したのか。通用しなかったとしたら、その原因は何なのか。こういった考えを持っていたかが学生に求められています。

社会人としての基本ルールやマナー、仕事の効率的な進め方、仕事に役立つ基本知識を習得、能力の向上のみならず、組織におけるコミュニケーション力、業務における最適なコミュニケーション手段と方法等々自分でものを考えられる要素を入れた様々な研修を企画し、いかに積極的に個人を表現でき自律性を養い、また、一人の人間として幸せな人生を歩んでいくために必要な「心の基礎力」の育成に重点を置き、人間力を高めるセミナーを本年、組合事業として国の新入社員助成金制度を利用し、延べ30日（216時間）の教育訓練を実施してきました。このセミナーも残すところフォローアップ講習会を含め数日となり、すでに助成金を請求

（研修費用＋人件費用数ヶ月分）された企業もあります。

例年ですと1日もしくは2日の日程で「印刷営業とは」など、一部の新入社員向けに行っていましたが、本年度は、規律・礼節から印刷営業、制作者向け、製造担当者向けなど、すべての新入社員の方に受けていただける内容にし、企業負担を軽減すべく、助成金制度を利用できるように、申請の手続きの手伝いも行わせていただきました。後半を残し、参加された組合企業の皆さんに、新入社員の方が各セミナーに参加された感想等の報告をさせていただきました。

大震災以後の開催となり、人間力の大切さが改めてクローズアップされ企業内での教育の重要性が再認識される中での研修会となり、企業に求められる社会人を育成し、より長く、より優秀な人間を作り上げる手助けができたのではないかと思います。本年度実施し、研修会での反省点等を来年度に向け更にバージョンアップした研修会を実施していければと考えております。愛印工組のこの事業は、理事長をはじめ多くの皆さんのご協力により開催し、全印工連でも紹介され、次年度は、東印工組をはじめ、多くの工組でも実施を計画されているとお聞きしております。次年度も当工組は実施予定しておりますので、是非、ご参加いただきたいと思います。

KONICA MINOLTA

The essentials of imaging

コニカミノルタに全てお任せください。

自校正

Digital Konsensus Premium Ultimate Edition

Falboard AQUA

デジタル印刷

bizhub PRESS C7000

環境対応プレート
ケミカルレスCTPシステム

BLUE EARTH

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社 デジタルイメージング事業部 中部営業部 〒460-0008 名古屋市中区栄2-9-15 三井住友海上ビル5階511F TEL. 052-229-4624(代)

●7月期理事会・支部長会

愛知県印刷会館建設の資金計画報告 特別会費と協組ファンド募集を決定

挨拶する高井理事長



平成23年度7月期理事会(第3回)・支部長会(第1回)が、7月20日午後3時30分より、東桜会館(名古屋市東区東桜2)で開催されました。理事会・支部長会では、平成23年度の委員会事業及び各支部活動の内容が報告された他、愛知県印刷会館建設の件(資金計画)では、建設にあたって「次世代が背負っていく『返済』という荷物を出来る限り軽減する」(会館建築主の愛知県印刷協同組合・白井紘一理事長)という観点から『特別会費』(寄附)募集及び『愛知県印刷協同組合ファンド』募集が決定されました。

理事会・支部長会の司会は加藤修専務理事が務めました。

冒頭挨拶に立った高井昭弘理事長は、インキや紙など諸資材の値上げ問題に言及し、「大変利益が上がりにくい状況になってきます」と先行きに懸念を表明。その上で「利益計画等を見直すなどして、健全な経営をしていただきたいと思います」と要望しました。

また、最近散見される印刷会社の倒産にふれ、「社員を悲しませ、お客様に迷惑をかけ、仕入先様に多大な損害を与えることは、終わりにしたいものだと思います」と述べた上で、「終わりにするためには、やはり安値受注を自粛して、正しい取引をするべきではないかと思っています」と正しい取引の必要性を強調。そして、次のように挨拶を締め括りました。

「正しい取引をするためには経営力が必要になるのですが、我々の業界はまだ経営力が不足していると思います。今後、そのような(経営力を高める)勉強会をどんどん開催していく予定です。支部の皆様にも参加をお願いしたいと思います」

この後、高井理事長を議長に議事の審議に入りました。

■議事

〈組合員の加入・脱退〉

加入なし、脱退5社(組合員総数273社)。

〈平成23年度委員会事業の件〉

○組織・官公需委員会

木野瀬吉孝副理事長が「明日(7月21日)県庁におもむき、最低制限価格制度の導入、ダンピング価格の防止の申し入れを行います」と報告。また「県だけでなく、各市でもダンピングが横行していますので、その元凶を絶たなくてはいけないと思っていますので、きちんと務めさせていただきます」と決意を述べました。

組織に関しては「愛知県印刷会館の建設にとまって予算の立て方、組織の維持の仕方が問題になってきていますので、それもあわせて協議をしています」と報告しました。

来年の新年互礼会(平成24年1月13日)に関しては「例年の講演会は中止とし、懇親会のみで開催で準備を進めています」と報告しました。これは2月の愛知県印刷会館の竣工を機に、新しい会館で日本印刷技術協会と提携して、4日間にわたってセミナーを集中的に開催するためです。

○経営革新・環境委員会

佐藤壽記委員長が、8月4日に開催する経営革新セミナーの概要、そして第2回ポスターグランプリの概要、進捗状況を説明しました。その他、全印工連が発刊した冊子『印刷産業経営羅針盤』(全印工連発刊)の購読を要請しました。

○マーケティング委員会

鬼頭則夫委員長が、9月26日に主に営業担当者を対象としたマーケティングセミナーを開催すると報告。講師はカリスマ添乗員と言われる平田進也氏。

○共済・労務委員会

猪飼重太郎委員長が、9月10日開催予定の『従業員・家族合同レクリエーション大会』の概要を説明するとともに、参加を要請しました。また、中小企業共済への加入状況を説明するとともに、組合財源確保の観点からも多くの加入を要請しました。なお、愛知県中小企業共済協同組合の担当者が『経営者医療共済』の内容、特典について説明しました。

○教育委員会

松岡祐司委員長が、平成23年度技能検定試験（実技試験、学科試験対策学習会、学科試験）のスケジュールを説明。

新入社員研修会については、7月29日に『コミュニケーションスキル・フォローアップセミナー』を開催することから、参加を要請しました。

また、松岡委員長が講師となって実施している『見える化』セミナーの状況を説明するとともに、IGAS2011期間中の9月20日、全印工連の教育・労務専門委員会が『見える化』のパネルディスカッションを開催することを明らかにしました。

この他、8月8日に開催する『Adobe CS5テクニカルセミナー』の概要を説明しました。

〈平成23年度地区協上期会議報告〉

去る6月17日に開催された中部地区印刷協議会・平成23年度上期会議（岐阜県会議）の分科会（経営革新・マーケティング、環境、組織・共済、教育・労務、取引公正化、理事長会）で討議された内容が報告されました。

〈各支部の平成23年度活動計画及び報告〉

各支部の支部長（代理を含む）が活動内容、今後の活動計画などを報告しました。

〈愛知県印刷会館建設の件〉

愛知県印刷会館の建築主である愛知県印刷協同組合の白井紘一理事長が、建設概要、建設費用、資金計画を説明しました。このうち、資金計画に関連して、「次世代が背負っていく『返済』という荷物を、出来る限り軽減する」（白井理事長）という観点から、「特別会費」（寄附）募集及び「愛知県印刷協同組合ファンド」募集を提議、承認されました。

○特別会費（寄附）

一口の金額5万円／目標金額1千万円／申込み締切8月25日

○愛知県印刷協同組合ファンド

愛知県印刷協同組合員（会社あるいは経営者のいずれも可）／一口100万円／募集口数50口／上限5口／年利1.0％／ファンドの期間10年／申込み期日



岩田宗雄氏に『旭日小綬章』伝達

平成23年度春の叙勲・褒章で、『旭日小綬章』を受章した岩田宗雄氏（元愛知県印刷工業組合理事長）の旭日小綬章伝達式が、7月22日午前11時15分より、愛知県庁西庁舎で執り行なわれ、愛知県産業労働部の杉浦健二次長より、岩田氏に旭日小綬章及び表彰状が伝達されました。

岩田氏は、愛知県印刷工業組合理事長、全日本印刷工業組合連合会副会長、中部地区印刷協議会会長などの要職を歴任。印刷業界の発展と地位向上に大きな役割を果たしました。（写真中央が岩田氏）

12月1日

〈全印工連フォーラムの件〉

高井理事長が、『全印工連フォーラム2011』（9月16日午後2時より／東京ビックサイト会議棟）の概要を説明、参加を要請した。

■今後の主な活動計画

○従業員・家族合同レクリエーション大会＝9月10日／長浜ウォーキングと竜王ぶどう狩り

○マーケティングセミナー＝9月26日／講師は平田進也氏

○Adobe CS5特別ライセンス新規会員募集説明会＝9月30日（予定／詳細は全印工連とアドビ社で調整中）

○永年勤続優良従業員表彰＝表彰日11月1日／伝達式10月31日／申請締切9月9日

○平成23年度後期 鉛・有機溶剤取扱者健康診断＝9月頃募集開始

○第2回ポスターグランプリ入賞・入選作品展示及び表彰式＝展示会11月1日～11月6日・愛知県美術館ギャラリー展示室A／表彰式11月3日午前10時30分開会・愛知県芸術文化センター12階アトスペースA

新しい印刷会館竣工に向け地鎮祭

白井理事長（愛知県印刷協組）らが安全を祈願



株式会社オーク建築設計事務所

■「愛知県印刷会館」建物概要（予定）

- 鉄骨造、地上4階建
- 建設面積75坪(247・95㎡)
- 延床面積289.25坪(956.20㎡)
- 1階：愛知県印刷工業組合
- 2階：全国印刷工業健康保険組合・東海支部
- 3階：中部印刷工業厚生年金基金
- 4階：貸事務所
- (建物前に駐車場完備)



地鎮の儀で盛砂の忌草を刈る白井理事長

オフィスに店舗に工場に、「LED照明」をご提案いたします。

私たちは、
地球にやさしい商品とサービスの提供を通して、
心豊かな社会の実現に貢献します。



株式会社 アクス

本社所在地 〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目25番35号
紙営業本部 TEL.(052)220-5511 IP電話(050)3533-5511 FAX. (052) 220-5522
Home Page <http://www.axuas.jp> / E-mail info@axuas.jp

「LED照明器具」の販売を始めました。

「LED照明」は地球環境にやさしい照明です。
聞いてはいるがよく判らないという方のために、
本社1階にショールームを開設いたしました。

ぜひ一度、体験して下さい。

オフィス、店舗、倉庫、工場の照明をはじめ、
ディスプレイや電飾看板にも使えます。
必ずやお客様へのヒントがそこにあるはずです。

心よりお待ち申し上げております°
(紙営業本部 環境ソリューション事業部)

完成は 来春1月中旬

新しい印刷会館の竣工に向け、6月29日午前10時より、地鎮祭が執り行われました。

地鎮祭には、建築主である愛知県印刷協同組合の白井絏一理事長、同協組の建設委員会、財務運営特別委員会のメンバー、それに愛知県印刷工業組合の高井昭弘理事長はじめ三役などが出席、工事の安全と無事な竣工を祈願しました。

地鎮祭の地鎮の儀のうち、菫初（かりぞめ）の儀では、白井理事長が盛砂に差してある忌草に斎鎌を入れました。また、玉串奉奠では、白井理事長はじめ出席者一同が、玉串を神前に捧げました。

地鎮祭の後、直会（なおらい）が執り行われ、出席者一同が御神酒で乾杯し、一連の儀式は終了した。

なお、終了にあたって白井理事長が挨拶に立ち、出席者に感謝の意を表した後、「思い起こせば、この建物をどうするかということで、10年近く協議を重ねてきました」と前置きした上で、「その結果として、今日、このような形で（地鎮祭を）迎えることができました。後戻りはできません。“前へ進むのみ”と思っています。私どもは、高井（愛印工理事長）さんと2人で一生懸命やってきました。この後、どのような形にするかは、会館の運営だけではなく、組合の運営を含め、若い皆様方でぜひご検討をいただきたいと思っています」と、次世代に期待を表明しました。そして、「一番願うことは安全第一です。絶対に（建設中に）事故を起こしてはなりません」と建設関係者に安全を要請した。

（「愛知県印刷会館」は仮称であり、竣工までに新しい名称が検討、決定される予定）

(上)「愛知県印刷会館」(仮称) 地鎮祭
(中)玉串奉奠で拍手を打つ高井理事長
(下)地鎮祭に出席した愛知印刷協組、愛印工役員ら



OLIVER496SD

菊全判4色
印刷機

大型多色SDシリーズ 第一弾

オールインワン
最新自動化設備 完全装備



最高の製品をお届けすることで、
お客様の満足をお約束します

Sakurai
株式会社 桜井グラフィックシステムズ
<http://www.sakurai-gs.co.jp>

本社
〒135-0032 東京都江東区福住2-2-9
TEL.(03) 3643-1131(代) FAX.(03) 3643-1138

中部営業所
〒501-3733 岐阜県美濃市3951
TEL.(0575) 35-2551(代) FAX.(0575) 35-2861

大阪営業所
〒532-0012 大阪府淀川区木川東3-1-31
TEL.(06) 6308-6651(代) FAX.(06) 6308-6679

九州営業所
〒810-0001 福岡市中央区天神5-5-8
TEL.(092) 741-2672(代) FAX.(092) 741-2670

岐阜工場
〒501-3733 岐阜県美濃市3951
TEL.(0575) 33-1260(代) FAX.(0575) 33-3146





中部地区印刷協議会23年度上期会議（岐阜県会議）が、6月17、18の両日岐阜市の岐阜グランドホテルにおいて開催されました。その詳細（全印工連・平成23年度事業計画／基本方針と実施事業など）については前号において報告しましたので、今号では、分科会の模様について報告します。



■経営革新
・マーケティング委員会
 吉田克也副委員長(石川県工組)

「経営羅針盤」の解説セミナーへの関心が高く、委員会参加メンバーの全員が、地元で開催したいとの意見がありました。

この「経営羅針盤」には、経営者に必要な経営基盤の強化を目指したポイントが取り込まれています。「事業戦略」、「収益構造」、「マネージメント」など、実践できる内容は経営に役立てることができ、こうしたことは、組合のメリットにも繋がって行くと思われます。

また、全印工連では、従来の受注産業的な印刷経営から脱皮し、顧客の問題解決策を様々な角度から提案する「ソリューション・プロバイダー」の役割を実践している、社員20人規模の組合員企業をピックアップし、紹介する機会を設けていく、との報告がありました。



■環境委員会
 山添克治委員長(三重県工組)

グリーン購入法については、東日本大震災の影響で一定の配慮がなされている部分はありますが、各

自治体の内容が異なるため、状況確認が必要だと思います。また、環境改善対策は、コスト削減にも大きな効果があります。例えば、電力デマンド（電気使用量の監視ソフト）の活用、エコ運転によるCO₂削減、5S活動なども有効です。これらを各県工組で積極的に啓蒙していけば相当な効果がでるのではないのでしょうか？さらに、カーボンフットプリント制度への対応も今後の重要な課題です。内容が複雑な面もありますが、将来的には顧客から要望がでてくると思われますので、早急な対応が必要でしょう。



■組織・共済委員会

楠 行博委員長(富山県工組)

「誰も読まないパンフレットを送る」、「営業は保険会社任せ」といった共済活動から脱却し、短期集中で効果の上がる取り組みを進めることが必要になります。そのためには、やみ雲に全組合員を回るのはではなく、「この会社にはこの保険が最適」という分析を行い、我々と保険会社が一緒になって回ることが必要です。例えば、まず、委員長がアポイントを取ります。保険会社の営業マンにも、県工組推薦の名刺を作ってもらいます。パンフレットも要点を絞った、わかりやすいものにします。富山県工組では、今年3月にこの方法で動き、1回の訪問で人数にして250名の生命保険加入に成功しました。



■教育・労務委員会

松岡祐司委員長(愛知県工組)

全印工連では、原価管理を行い社内でも共有する「見える化」の推進セミナーを全国で開催します。これについては、愛知県工組で、今年2月にパネルディスカッションを行いました。参加者から「実際にどう取り組めばいいのか」との質問がでました。具体的な手法は各社で異なりますが、まずは、社員に日報を提出させ、管理システムを落とし込みます。制作にかかった時間と見積り金額とのバランスを考えることが重要になります。アドビシステムズとの契約でアドビCS5を割安に提供する「特別ライセンスプログラム」では、今年8月にアフターケアの

セミナーを名古屋で行います。また、9月には新規募集の説明会も開きます。



■取引公正化委員会

鈴木岳志委員長(岐阜県工組)

官公需における最低制限価格の導入では、岐阜県工組では、昨年からの試行錯誤を経て、今年9月からの正式導入が決定しました。三重県工組も今年10月に正式導入の予定です。愛知県工組は導入に向けた交渉を継続中です。石川県工組では組合が要望した仕様書フォーマットを今年度から県が採用しました。仕様書については、「帳票類、ページ物など、カテゴリー別に、全国共通のフォーマットを全印工連で作成することで、官公庁との様々な交渉で主導権を握れるのではないか」との意見がありました。

また、著作権に関して、富山県工組では、県が発注者側の不当な著作権要求の禁止などを盛り込んだ手引書を作成しました。この問題も解決が容易でないため、全印工連で組織的な対応を進める必要があります。ただし、それだけに頼るのではなく、各県で独自交渉することが重要になります。



■理事長会

東澤光明理事長(富山県工組)

愛知県工組では、国の助成金を活用した新入社員研修を実施、希望があれば今後、各県工組との共同開催も進めたいとの意見がありました。また、内部

●身近な催し物のお知らせ(愛印工組関係)

開催日時	事業・行事、場所、備考	
8月27日(土) 13:00~ 16:30	事業・行事	平成23年度 教育事業 技能検定 学科試験対策学習会
	ところ	ウインクあいち 12階 1級「1208会議室」 2級「1209会議室」
	定員	1級：25人 2級：30人 参加費：@¥4,200
9月10日(土)	事業・行事	従業員・家族合同レクリエーション大会 長浜地区ウォーキングとアグリパーク 竜王でのぶどう狩り(日帰りバス旅行)
	※詳細はホームページに掲載	
9月26日(月) 18:30~ 20:00	事業・行事	マーケティングセミナー 「浪速のカリスマ添乗員に学ぶマーケティングの極意」 講師 平田進也様(株)日本旅行 西日本営業部営業推進事業部 部長)
	ところ	名古屋会議室 宝第一伏見中央店(宝第一ビル2階)
	参加費	組合員 各社 1人目@¥4,000 2人目から@¥3,000 一般 1人 @¥5,000
10月31日(月) 11:00~ 12:00	事業・行事	平成23年度 永年勤続優良従業員表彰伝達式
	ところ	未定 会長及び理事長表彰(10年以上表彰) 県知事表彰(15年表彰)

●身近な催し物のお知らせ(関係団体)

開催日時	事業・行事、場所、備考	
8月27日(土) 13:30~ 16:55	事業・行事	平成23年度 中部支部 夏季印刷技術セミナー
	ところ	ウインクあいち 12階「1203会議室」 会費7,000円 (3人以上ご参加の企業は一人6,000円)

だけでなく、外部に向け業界の現状などを伝えるため、全印工連の広報事業をより強化すべきとの要望がありました。

TOYO INK

生活文化創造企業

あなたが企業に求めるものは何ですか？私たちはモノ作りの会社として、
先端の技術、最高の製品と品質、そしてまた、さまざまな企業活動を通じて、あらゆる人々に
“満足”を届け、しあわせな生活のシーンを支えていくことだと考えます。
私たち東洋インキグループは、世界にひろがる
「生活文化創造企業」を目指します。

東洋インキ株式会社
中部支社 〒461-0025 愛知県名古屋市東区徳川1-901 サンエース徳川ビル1階 Tel: 052-979-7451

www.toyoink.co.jp

印刷機械の予防保全 ～その事例と改善のポイント～

講師：川名茂樹

(株)小森コーポレーション 予防保全チーフアドバイザー



●何故予防保全が必要か

小森が行っている予防保全活動（KPM・小森式予防保全）は何のためにしているのか。KPMは予防医学を適応して開発してきたものである。予防医学は何のために行うのかというと、「病気をしないで、長生きするため」である。だから、KPMは、①突発故障を無くして、②マシンライフを伸ばす活動である。

何故、病気をしないで長生きをしたいか、と問うて、ただ心臓が動いていればよいという人はいない。素晴らしい人生を謳歌したいから、健康でいたい。印刷機も同じである。③品質、生産性、利益を実現するためである。この3つの目的をどのようにして実現したかということ、いくつかの会社の例を紹介する。

●王子パッケージング(株)の例

東京にあるパッケージ会社の例である。王子パッケージング(株)では、2005年8月からOPI（Oji Packaging Profit Innovation・王子パッケージ利益改革）活動を展開している。

OPIを開始し、5台の機械の休転時

間を2年後に測った。5台で発生件数が90件であった件数は122件に増えたが、時間が52%に減った。1件当たり96分であったのが、37分に削減された。機械が突然止まると機械メーカーの修理が来るまで待っている。その上で修理する。とても37分では無理である。修理時間が長いのは突発故障でメーカー修理が多いということである。短いということは、自分たちで治している。つまり、今までオペレータが気付かず、突然ドカンときていた修理から、予測して自分たちで直すことができるようになった。それが数字に表れている。

それが結果として、生産性、売上にどのように影響したかは、スピードが12%アップし、準備時間は20%近くマイナスしている。停止率、休転率も10%以上マイナスしている。しかも小ロット化が急激に進行し、平均セットサイズは20%位マイナスしている。こうした条件の中で、生産性を向上させているのだ。

現場では5つの小集団チームを作って、それぞれ2人の担当を付け、月1回発表会を行いながら活動している。目標をかかげ、それが実現されて

いるのかを数値でつかみ、対策を行ってきた。例えば、準備時間短縮のチームが作ったものを見ると、当月のテーマ、実施状況、当月の問題点、そして、準備時間はどのように変わってきたかをグラフで追っかけている。8月の準備時間短縮の実施内容を例にとると、まず、プラン洗浄機で洗浄後、手洗いをしない。そして、水棒の調子が悪いので修理をする、と書いてある。そしてもう一つ、汚れ防止の講習会をする、とある。この3つが準備時間短縮の対策になっている。初めが作業の問題、次が機械の問題、3つめが技術の問題である。一般的には時間短縮するとなると、まず機械にいく。「機械が悪い、だからダメだ」となるが、ほとんどの現場はこれだけで終わることが多い。機械を直せば直後に効果はでるが、準備時間の短縮を継続させるのは無理である。ここで一番大事なのは、自分たちの作業内容をもう一度考え直す。そして、常に自分たちの状態を一つ上のレベルから見つめ直すことである。そのためには、勉強をして自分の技術、知識をもう一段高めないといけない。

つまり機械、作業、技術の3点をセットで実施したからこそ、継続的な成果を上げることができた。技術や知識を高める勉強を、「しない」、「させない」、「与えない」現場は、決して変わらない。

●(株)第一印刷所の例

(株)第一印刷所は新潟県に本社を置く総合印刷会社である。その最大の特徴は、枚葉機13台、輪転機3台、フォーム輪転機8台、平台2台、製本機35台、封入機器18台、印刷付帯機器22台、その他、多数の機械を稼働させて

(5年5月度をベンチマーク:BMとし、5年8月から活動開始)

印刷機械 5台全体	運転スピード (枚・巻/時)	準備時間 (分/セット)	停止率 (%)	休転率 (%)	時間生産量 (枚/時)	平均セットサイズ (枚/セット)
05年 5月度=BM	100%	100%	100%	100%	100%	100%
07年 9月度実績	110%	81%	88%	90%	110%	79%
07年 10月度実績	112%	83%	88%	91%	110%	80%

<注> ●停止率=停止時間/(運転時間+停止時間) (ジョブ中の機械停止時間を算出)
●休転率=休転時間+総時間 (メンテナンスや機械故障などを含む停止時間を算出)

機械故障による休転時間比較

印刷機械5台全体	発生件数	休転時間	平均時間/件
05年度上期	90件	144.99時間	96分/件
07年度上期	122件	74.69時間	37分/件
%比較	136%	52%	39%

●稼働時間中の休転時間を示すデータであり、休日などの機械運用は除く。
●UV付帯機器の休転時間を除いた、それ以外の印刷機械故障データである。

いる。製造部全体で活動し、成果を上げた点を紹介する。

まず、修繕費を1年後に500万円以上削減した。この修繕費はほとんどが年間計画によって予算化されている。例えば、ローラ、ジャケット、UVランプ、ドライバー、触媒などは定期的に交換される。その中に突発修理予算700万円を組み込んでいる。その修繕費が、予防保全活動を行ったら500万円以上削減したのは何故か。機械停止時間と停止件数の変化を見ると、時間比で47・2%削減し、件数では21・4%減。件数よりも時間が大幅に減っている。1件当たりの機械停止時間は33%も減っているのだ。つまり王子パッケージのデータと同じように、突発修理が激減した。突発故障予算700万円を使う件数が少なくなったのだ。しかも、計画修理をする場合でも機械状態が良いので費用も少なくて済む。これが700万円以上削減しえた根拠である。

そして、予防保全活動の3つめの目標である生産性、品質がどうなったか。同社では、回転数などをパーセントで示すようになってきている。印刷物によって、最高速で刷れるものもあれば、10,000回転でしか刷れないものもある。仕事によって回転数を決め、その回転数で印刷したら100%とする。枚葉機部門での16ヶ月間の平均は、105・3%である。さらに事故率は製造部全体で見ると、6%削減している。

では、どのような活動を行ったか。メンテナンス・チェックシートは「保守点検作業予定・実施確認表」となっている。この「作業予定・実施確認」というところがポイントである。月間スケジュール表には、保守点検作業

(株)第一印刷所／製造本部の修繕費用比較表

製造本部 全体	2006年度	2007年度	前年対比	削減率
	06年1月～12月	07年1月～12月		
修繕費	67,811千円	62,447千円	▲5,364千円	7.9%

突発故障時間・件数の比較表

製造本部全体	2006年度	2007年度	前年対比	削減率
	06年1月～12月	07年1月～12月		
突発故障停止時間	467.8時間	246.8時間	▲221時間	47.2%
突発故障件数	257件	202件	▲55件	21.4%
時間/件	1.82時間/件	1.22時間/件	▲0.6時間/件	33.0%

予定が毎日、毎週、毎月ごとに数項目書かれている。その横には所要時間が書いてある。そして、日付の欄に丸がある。その日にメンテナンスを行うように予定があらかじめスケジュール化されている。そして、メンテナンスを行ったら、その丸を確認チェックを入れる。メンテナンスには時間が必要である。このように、工程管理に入れないとほとんどできない。何故ならば、仕事は次々に入ってくるからである。そのために結局後回しとなり、行ったふりをしてごまかすことになる。

メンテナンスを行っていくと、人によりバラツキがでてくる。これは必ずある。メンテナンスは具体的活動であり、保全技術の差が出てくるからである。それゆえ、基本作業・作業方法を統一しマニュアル化している。さらに各機械には設備表示板が貼ってあり、メンテナンスに起因する印刷事故が1ヶ月間なければ丸が付く。1年間無事故であれば黄色い星が付くようになってきている。罰則規定はないが、全部の機械に貼ってあるので、担当機長は丸がないとみっともないと感じる。現場のモチベーション高揚に大きな効果を上げているが、その秘訣は、印刷事故の中のメンテナンスに要因を限定し、それを「見える化」したことである。

当時の現場のトップは「突発故障を少なくすることを狙っています。やることをやっていれば、メーカーを呼ぶような事故にはなりません。そのためにはお金も時間もかかりますが、それを無くして、計画生産と品質アップはありません」と語っている。

管理職の方は、もう一度自分の仕事は何だろうか考えていただきたい。つまり、人、物、金、時間、情報をどのように投資するかである。よく、「時間がなくて…」、「メンテナンスの時間なんてないよ」との言葉を聞く。しかしどの会社も時間は同じだけしかない。第一印刷所だけ25時間あるわけではない。問題は重要度が低いというだけの話である。だから、メンテナンスの時間がないというのは、メンテナンスをやる気持ちがないということのいい換えでしかない。この活動は1日、2日では効果がでない。最低1年、普通は2年ぐらいかかる。そこまで先を見れるかである。

●土山印刷(株)の事例

土山印刷(株)は、今年100年を迎えた老舗の会社であるが、2006年に新工場を建て、最新のデジタル工場をスタートさせた。同年11月にリソロンS440(菊全判4色機)を導入。

御社の印刷工場になります

制作から印刷・製本・発送まで自社一貫体制

- ◎カラーもモノクロもページもの印刷得意です
- ◎厚紙パッケージ菊全4色印刷始めました
-0.04mmの薄紙から0.8mmまでの厚紙まで-
- ◎菊全シルバーマスターでのページもの印刷もできます

 **大日印刷株式会社**
0564-62-8461(代)

幸田工場 額田郡幸田町大字坂崎字石ノ塔46-1 FAX(0564)62-8463

http://www.p-dainichi.com E-mail:mail@p-dainichi.com

お役に立てる印刷機材の総合商社

創業1889年の盛功社は2009年、120周年を迎えました。
3世紀にわたるご愛顧をはずみとして新たな未来へ

- 印刷機材 ●製版機材 ●製本機材
- DTP関連機 ●その他印刷諸材料



株式会社 **盛功社**

〒461-0014 名古屋市中区榑木町3丁目17番地
TEL 052-932-5611 FAX 052-931-0280

みんなで
参加
しましょう

「従業員・家族合同レクリエーション大会」

毎年恒例の「従業員・家族合同レクリエーション大会」を下記の要項で開催します。多くの皆さんの参加をお待ちしております。今回出掛けます「長浜」は、江戸時代の面影を残す古い町並みが保存されており、散策とショッピング、そして、「江・浅井姉妹博覧会」も楽しんでいただけます。

【日帰りバスツアー】

■場所 滋賀県長浜地区「江・浅井姉妹博覧会見学とウォーキング」、「アグリパーク竜王でのぶどう狩り」

■開催日：9月10日(土)

■参加費：大人1人3,000円、子供1人2,000円

2008年にリスロンS640（菊全判6色機）を増設、さらに、2010年にはスピカ426P（菊半裁4色反転機）を導入している。そして、1シフトから2シフトへ徐々に生産体制を倍増してきた。

新工場の稼働と同時にスタートしたKPMと品質強化活動の成果を紹介する。印刷自己履歴から印刷事故件数(a)を調べてみると、2007年10件、2008年8件、2009年9件、2010年（7ヶ月）3件である。一件変化がないと見えるが、機械稼働状況率(b)を見ると驚くべき数字となる。

2006年納入の4色機は2007年2月まで1シフト体制であったが、3月から2シフト体制に移行した。この時の機械稼働状況率(b)を100%とする。そうすると2008年は8月に6色機の増設とその1シフトが加わるため127%となる。

なお、色数は計算しないで1台とし

ている。2009年は4色機が年間通して2シフトで、6色機は3月から2シフトに移行したので209%になる。2010年は2台の2シフトで7ヶ月のため127%となる。印刷事故件数(a)を機械稼働状況率(b)で割ると、印刷事故率は2007年100%、2008年63%、2009年43%、2010年は24%である。削減率は76%である。機械が増え生産体制と稼働時間が増えているのに、印刷事故は減った。

では、何を行っているか。「KPM年間パック」が実行された。このパックは、機械メーカーサービスからの有料の予防保全サポートプログラムである。メンテナンス・チェックシートの提供と指導、さらに、トレーニングや各種サポートなどが含まれている。この予防保全活動を工場全体で推進し続けている。KOMORI製の予防保全チェックシートを自分たちの会社バージョンにして毎日点検を行っている。

また、どこの印刷会社も温湿度管理を行っていると思うが、見習ってみたい点がある。同社では温湿度の記録表示を基準値と許容値を網掛けしたグラフにして、測定時の数値を点で入れている。数字で書き込んで管理しているところを時々見かけるが、数字だと許容値に入っているかが一目でわからない。考えないとわからない。労多くして効少なしであるが、グラフに点で書き込むと一目でわかる。労少なくして効多くである。また、5S活動も行い、その状況を5段階評価している。

リスロンS640は特色、ニス引きをはじめとして、280線やFMスクリーン、ヘキサクロム印刷などにチャレンジし、商業印刷ばかりか美術印刷も定期的に受注し商圏を拡大している。西浦機長は、「4色印刷よりも気を使いますが、難しいものは勉強になりますし、お客様から喜んでいただけるとやりがいを感じます。プライドを持って印刷をしていますから、全てが楽しいです」と語っている。若い人を育成しながら、「土山品質」を背負っているというオペレータの責任感が皆を変えた。

現場のオペレータの方々には「プライドを持っているか」、「印刷が楽しいと感じるか」、「オペレータが主役になっているか」、もう一度、自社の印刷現場と印刷オペレータに聞いてほしい。

●中本総合印刷(株)の事例

広島県の老舗総合印刷会社、中本総合印刷(株)の事例を紹介する。

同社は、「広島に中本総合あり」といわれた非常に有名な会社であった。車のマツダと一緒に延びてきたが、2006年に赤字経営から、ユニバーサルポストグループの一員となり、「新生中本」として生まれ変わった会社である。経営陣が変わり、リストラがはじめた。その中でどのようにして立ち直ってきたか。

修理件数履歴を見ると、2005年度は機械台数が5台で28件、2006年度に機械台数が2台増えたが30件、しかし2007年度には12件になり、2005年の43%に削減した。

同社では機械点検表の白色用紙は日

土山印刷(株)印刷事故履歴

	2007年	2008年	2009年	2010年 (7ヶ月分)	07年と10年 の比較
事故件数 (a)	10件	8件	9件	3件	
機械稼働状況率 (b)	100%	127%	209%	127%	
印刷事故率 (a÷b)	100%	63%	43%	24%	76%減
備考 リスロンS40 (4色機・6色機)の シフトについて	4色機は3月 から2番24 時間体制	4色機は2番 24時間体制、 8月増設 の6色機は1 番体制	4色機は2番 24時間体制、 6色機は 3月から2番 24時間体制	4色機・6色 機とも2番 24時間体制	

紙でご愛顧50年

印刷用紙専門商社



メイカミ

名古屋紙商事株式会社

社長 長谷川 志

名古屋市長区主税町4-83 〒461-0018
TEL.052-931-2221(代) FAX.052-932-1418

豊山加工センター 愛知県西春日井郡豊山町豊場
TEL (0568) 28-2049

時点検、クリーム色は週次点検、ピンク色は月次点検、6ヶ月点検はモスグリーン色の用紙と工夫してメンテナンスを行っている。また、保守管理報告書を作り管理しているが、そのオフ輪の2007年の例を見ると、KOMORIが出張修理したのは3回しかない。ところが修理した工数は35ヶ所ある。32ヶ所はオペレータが修理しているのだ。その内容も事後保全か、予防保全か、改良保全か、書いてある。自分たちでなんとか突発事故にしない、つまり事後保全にしないで、できるだけ予防保全に変えていっている。そしてもっと改良して壊れないように工夫している（改良保全）。

品質の問題も関係する項目を全部あげ分析をする。分析してみると、21件の品質不良の内16件が確認不良、12件が調整不良であった。では確認不良をどうするか。「もっとチャンと見る」、「もっと頻りに抜け」となることが一般的には多い。同社では、検査の見方にバラツキがあるのではないかと考えた。「経験20年以上の方もいれば、1年の方もいる。ミスをして始めて学ぶ古典的なやり方を変えるため、皆さんの抜き取り検査の方法を教えてください」というアンケートを全員にとった。どうやって、どこから、どのように見ているか、どこにポイントを置いているかをアンケートし、検査の方法をマニュアル化した。そして常に新しく変えていっている。

「古い歴史にどっぷりとつかっていた意識を180度かえ、利益の出る会社にする」これが「新生中本」の目指したものだ。まず、見える化をした。売上、原価、粗利をはっきりわかるようにした。そのために部署ごとの作業1分間あたりの原単価を出して、一つの仕事ごとに全ての個別原価明細をはっきりさせた。目標の粗利を各部署ごとに達成しているか、問題があればその部署で対策を打った。一つ一つ潰していった。

そして、情報は金額を含めて全部オープンにした。例えば、印刷課か

中本総合印刷(株)／KOMORI機の出張修理件数比較表

	機種	納入年月	05年度	06年度	07年度
複製機	四六全判4色機	1989年 9月	5件	1件	4件
	菊全判両面単色機	1991年 3月	2件	3件	1件
	菊全判4色機	1991年10月	11件	12件	1件
	菊全判2色機	1996年 6月	2件	3件	0件
	菊半裁5色機	2004年11月	—	0件	0件
	菊全判両面4色機	2004年12月	—	3件	3件
輪転機	B短半裁機	1996年 6月	8件	8件	3件
出張修理計			28件	30件	12件
05年度比			100%	107%	43%

全機のスロスクレーム件数履歴表

(印刷機7台)		05/11~06/4	06/5~10	06/11~07/4	07/4~10	07/11~08/4
スロスクレーム	件数	48件	36件	30件	17件	18件
	%	100%	75%	63%	35%	38%
(保全不良)	件数	17件	12件	13件	9件	2件
	%	100%	71%	78%	53%	12%

◆スロスクレーム：社内社外を問わず、取り直しのため新たに紙を購入した件数
 ◆(保全不良)：スロスクレームの内、機械的要因やメンテナンス不良が原因の件数

ら「修繕費の残りが少ないので印刷部門が使うと他部門が使えなくなるから注意してほしい。新台を入れるには月200万円のリース料金が発生するから、利益を200万円出して新台を導入しよう。そのためには俺は何をすればよいか」という話がされるようになった。

もう一つは人事交流である。機械現場はどんどんローテーションを組む。それだけではない。印刷が刷版など何でも行う。営業も刷版も印刷を行う。ある時、製本機が故障して人手が必要となったので、印刷機を止めて、社内の営業も入って納品した。判断基準は『そのほうが会社にとって利益になる』である。営業の手がなくて困っていると、オペレータがネクタイをしめて営業に行く。これらの改革を2年間やり続けた。

大村常務は、「稼働率で勝負をせいとはいわない。いくら回っても利益が出ないのでは何にもならない。3年前は通期で22億円の売上がありましたが、赤字でした。新生1期目はささやかながら経常黒字に転換し、今期は昨年度以上の経常黒字の見通しがついています。2008年9月で中本総合印刷は80周年です。広島で“中本学校”とまでいわれた印刷の老舗ブランドは復活したのです。今の体質なら売上が多少減ったとしても利益が出せます。しかし、厳しい状況はこれからも続くでしょうから、作り上げた力を基に拡大にはいきます。すでに大手顧客からの仕事が、徐々に増えてきました。そして、再建、リストラの中で心ならずも去っていった人たちに、もう一度門戸

を開けるようになりたい」と語る。

経営陣、営業、印刷現場の風通しはどうか。皆が同じ目標を持って協力し合っているか。仕事の中に生きがいを感じているか。これが、生まれ変わりをせざるを得なかった会社が復活し、今や優良企業になった理由であろう。

●予防保全を成功させるために！

予防保全は「3人4脚」でなければ絶対に成功しない。「3人4脚」は一人が倒れたら皆倒れる。それぞれに役割がありそれを実行しなければならぬ。経営者には人・物・金・時間・情報の投資する仕方を変えてもらう。現場は保全と改善活動をやる。メーカーは性能保障とサポートをする。一人がサボれば、皆倒れてしまう。

しかしその“主役”はだれか。もちろん現場である。オペレータが変わり、自走できるようにしなければならない。やりがいを感じている、毎日が楽しいと思うようにならなければならない。そうなるために3者が汗をかくのだ。それが成功事例から学ぶことであろう。

本稿は、愛印工組・教育委員会（松岡祐司委員長）が、6月25日「ウイंक あいち」において行った、印刷予防保全セミナー「印刷現場の予防保全～その実例と改善ポイント～」講師：川名茂樹氏の講演内容をまとめたものである。印刷現場に携わる方には、是非、一読願いたい内容である。（文責在記者）

